

保護者様

京都市立岩倉南小学校
校長 今村 ひろみ平成26年度 前期学校アンケート結果報告及び
全国学力・学習状況調査の結果報告

学校評価の取組は、「子どもの豊かな学びと育ちを実現するために、学校と家庭・地域が双方向の信頼関係のもとに情報や課題意識を共有し、改善することを目指しています。

本校の学校評価は、「京都市学校評価支援システム」を活用しています。これは、学校・家庭・地域の多くの課題の中で、優先的に取り組む内容を明らかにすることで、子どもにかかわる全ての人が改善のための行動を起こしやすくするためのものもあります。保護者の皆様にご協力いただいた保護者アンケートでは、項目評価に、「重要度（重要であるー重要でない）」「実現度（できているーできていない）」を同時に尋ねる形式を取り入れ、重要だけれども実現度が低い項目を課題としてとらえるようにしています。

また、学校評価を3つの分野に分けて質問しています。児童・保護者とも表現に少しの違いはありますが、同じ内容を質問しています。これらについて「どのくらい重要性を感じておられるか」「また、実際にどの程度実現できていると考えておられるのか」を尋ねました。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。また、4月に行われました6年生の全国学力・学習状況調査の結果もあわせて報告させていただきます。

3つの分野

(1) 確かな学力 (2) 豊かな心 (3) 健やかな体

● 学校評価支援システム（「ニーズ調査型」アンケート）を活用しての分析結果
(保護者アンケート 集計表) の見方

*『ニーズ度』は『重要度』×(8-『実現度』)で計算され、最高値は「49」です。
『重要度』が高く、『実現度』が低いほど『ニーズ度』の値が高くなり学校の課題と考えます。
『ニーズ度』が「25」を超えるものは、重点課題に位置付けられ、網掛けで表示されます。

*今日はニーズ度が低く良い状態にある順に質問項目を並べ替えています。

*重要度・実現度の最高値は「7」です。7に近いほど、重要であり、実現もできていると判断します。

*ニーズ度の値が低いほど良い状態にあると考えられます。

質問文

重要度

実現度

ニーズ度

子どもは、楽しく学校に通っている。(2)	6.9	6.1	13.1
子どもは、友達と仲よくしている。(2)	6.7	5.7	15.4
子どもは、学校やクラスのルール・約束事を守っている。(2)	6.7	5.3	18.1
子どもは、外遊びなどでよく体を動かしている。(3)	6.6	5.2	18.5
子どもに、早寝・早起き・朝ごはん等の習慣が身に付いている。(3)	6.8	5.2	19

*評価項目の後の()は、3つの分野を表します。

*「重要度」と「実現度」の特に高い値と低い値には、網掛けがしてあります。

●保護者アンケートの集計結果及び考察

3つの分野

(1)確かな学力 (2)豊かな心 (3)健やかな体

質問項目	重要度	実現度	ニーズ度
子どもは、楽しく学校に通っている。(2)	6.9	6.1	13.1
子どもは、友達と仲良くしている。(2)	6.7	5.7	15.4
子どもは、学校やクラスのルール・約束事を守っている。(2)	6.7	5.3	18.1
子どもは、外遊びなどでよく体を動かしている。(3)	6.6	5.2	18.5
子どもに、早寝・早起き・朝ごはん等の習慣が身に付いている。(3)	6.8	5.2	19
子どもは、学校であったことを家庭で話している。(2)	6.4	5	19.2
子どもは、授業が分かっている。(1)	6.9	5.2	19.3
子どもに、基礎的な学力がついている。(1)	6.9	5.2	19.3
子どもに、人を大切にする気持ちが育っている。(2)	6.8	5.1	19.7
子どもは、平日に家庭で、学年×15分間机に向かっている。(1)	6	4.7	19.8
子どもは、自分のことは自分でしている。(3)	6.6	5	19.8
子どもは、家庭で好き嫌いなく食べている。(3)	6.4	4.8	20.5
子どもは、次の日の学習の準備をしている。(1)	6.4	4.6	21.8
子どもは、友達のがんばりを認め、励まし、助け合える。(2)	6.6	4.7	21.8
子どもは、人の話をしっかり聞ける。(1)	6.8	4.6	23.1
子どもは、家庭でも読書をしている。(1)	6.1	4.2	23.2
子どもは、分かるまで学習に取り組んでいる。(1)	6.7	4.5	23.5
子どもは、進んで挨拶をしている。(2)	6.7	4.5	23.5
子どもは、丁寧な言葉づかいをしている。(2)	6.4	4.3	23.7
子どもは、自分の考えをきちんと言える。(1)	6.7	4.4	24.1

◎考察◎

- ・3つの分野に分けて見てみると、それぞれの分野の中にも、ニーズ度が高い項目と低い項目がある。項目の内容が身についていたり、満足できていたりするものもあれば、課題として大きく浮かび上がってきているものもあると考えられる。特に「(1)確かな学力」「(2)豊かな心」の分野については、人とのかかわりに関する項目に課題が見られている。保護者が子どものコミュニケーション力や人間関係に満足していないことが伺える。対人関係の希薄さをどう克服していくかという大きな課題には、学校と家庭・地域が連携して取り組んでいく必要がある。
- ・「家庭での読書」は、重要度が低いため、実現度は項目の中では一番低いが大きな課題とはなっていない。また、「家庭学習」の重要度も低いことから、放課後の過ごし方には各家庭の考え方や実態も大きく影響していると考えられる。家庭学習や家庭読書のねらいには、学力・読解力向上だけでなく、自学自習から生まれる「計画を立てる力」「見通しをもって取り組む力」などの育成につながるという側面もあるということを踏まえて今後の実践につなげていきたい。
- ・ニーズ度から判断すると「楽しく学校に通っている」「友達と仲良くしている」の項目については、概ね実現できていると捉えられるが、「進んで挨拶をしている」や「丁寧な言葉づかいをしている」の項目については課題がある。互いを認め合い、思いやりをもつなど、人と良好なコミュニケーションをとることについては十分ではない。人とかかわり合い、ゆとりをもって生活する大人の姿が、子どもたちに反映されていくという意識をもつ必要性を感じる。日々の大人の姿から子どもも学んでいくのではないかと考える。

●児童アンケートの集計結果

(低) 2~3年 (高) 4~6年

(1) 確かな学力		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1. 学校の授業はよくわかる。	低	60%	36%	4%	0%
	高	53%	42%	4%	1%
2. 学習したことが、身についている。	低	45%	46%	9%	0%
	高	42%	50%	8%	0%
3. 平日、家庭で学年×15分机に向かっている。	低	54%	28%	15%	3%
	高	43%	26%	20%	11%
4. 家でも読書をしている。	低	64%	21%	11%	4%
	高	44%	24%	23%	9%
5. 人の話をしっかり聞いている。	低	50%	44%	5%	1%
	高	34%	53%	12%	1%
6. 自分の考えをきちんと言える。	低	41%	41%	17%	1%
	高	36%	41%	20%	3%
7. わかるまであきらめずに学習に取り組んでいる。	低	62%	31%	6%	1%
	高	39%	39%	19%	3%
8. 家で、つぎの日の学習の準備をしている。	低	79%	17%	3%	1%
	高	64%	26%	6%	4%

◎傾向◎

- ・『1. 学校の授業がよく分かる』『2. 学習したことが、身についている』『8. 家で、つぎの日の学習の準備をしている』の項目で90%以上の児童が「よく出来ている・大体出来ている」と感じている。これは子どもたちが意欲的に学習に向かっていることの現れではないかと考える。「出来ていない」と感じている少数の児童に目を向け、丁寧に見取り、個に応じた支援の充実を図ることが大切である。
- ・『3. 平日、家庭で学年×15分机に向かっている。』『4. 家でも読書をしている』は高学年になるほどあまり出来ていないようである。学年が上がると忙しくなる現状だが、見通しをもって計画的に取り組む力を身につけることにつながることを伝えたい。
- ・『5. 人の話をしっかり聞いている』の項目は、低学年も高学年も90%前後の児童が「よく出来ている・大体出来ている」と感じている。しかし、なんとなく聞くのではなく、人の発言や言葉に耳や心を傾けて聞く習慣になっているかどうかを考えていく必要がある。
- ・『6. 自分の考えをきちんと言える』という項目は「あまり出来ていない」と感じている児童が約20%いる。他者意識が強くなったり、間違えることを恐れたりしているのではないだろうか。自信をもって自分の思いや考えが発言できるようにしていく必要がある。
- ・『7. わかるまであきらめずに学習に取り組んでいる』では低学年と高学年の差が顕著に出ている。学習が難しくなっていくことが要因の一つとして考えられるが、わからないから学習するという意識を高め、根気強く学習できるように支援していきたい。

◎対策として◎

授業中に「自分の意見や考えを出し合う」ことで、学習への意欲が高まり、「わかるまで粘り強く学習に取り組む」児童も増えると考えます。教師が児童と一緒に根気強く向き合い、個々の課題を発見し、克服できるよう指導を行っていきます。わからないことがあっても仲間と助け合い、教え合えるようなより良い学級づくりをして、日々の授業の工夫を行い、学ぶ意欲を高めていきます。

読書の楽しさを感じる取組を進めています。マイバッグに本を1冊入れて、いつでも手に取って読めるようにしたり、ブックウォークや全校一斉読書の取組を進めたりしています。朝読書も継続しています。本を楽しむ会の保護者の方に読み聞かせをしていただく機会も増え、読書の楽しさを伝えています。

保護者アンケートの結果から課題となっているところは、児童も課題として捉えています。児童と家庭と学校が連携して取組を進めていきたいと思います。

(2) 豊かな心		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1. 学校に来るのが楽しい。	低	71%	21%	7%	1%
	高	64%	28%	4%	4%
2. 進んであいさつをしている。	低	64%	28%	7%	1%
	高	50%	40%	9%	1%
3. ていねいな言葉遣いをしている。	低	47%	40%	10%	3%
	高	23%	58%	16%	3%
4. 人を大切にしている。	低	74%	24%	1%	1%
	高	58%	38%	3%	1%
5. 友達と仲良くしている。	低	85%	11%	3%	1%
	高	80%	18%	1%	1%
6. 友達のがんばりをみとめ, はげまし, 助け合っている。	低	61%	30%	8%	1%
	高	47%	44%	8%	1%
7. 学校やクラスのルール・約束事を守っている。	低	56%	37%	6%	1%
	高	42%	47%	9%	2%
8. 学校であったことを, 家庭で話している。	低	60%	28%	7%	5%
	高	54%	31%	10%	5%

◎対策として◎

◎傾向◎

- ・『1. 学校に来るのが楽しい』『5. 友達と仲良くしている』ということは自分の居場所があるということだと考えられる。多くの児童が「よく出来ている・大体出来ている」と感じている。しかし、少數ではあるが、低学年も高学年も「出来ていない」と思っている児童がいることを重く受け止めたい。
- ・『2. 進んであいさつをしている』『4. 人を大切にしている』『6. 友達のがんばりをみとめ, はげまし, 助け合っている』の項目では、自分では「よく出来ている・大体出来ている」と思っている児童がたくさんいる。しかし、保護者アンケートの結果とは大きな差があり、できているつもりの児童が多いのではないかと考える。友達を増やし、さらに深い友達関係を築くためにも、自分から進んで相手を思いやり、気持ちの良いかかわりができるようにしていきたい。
- ・『3. ていねいな言葉遣いをしている』は、低学年も高学年もこの8項目の中で最も評価が低い。子どもたちは何をもって「できていない」と捉えているかは明らかでないが、自分の言葉遣いが適切でないと捉えていることは事実である。自分を見つめてできていないことに気付いているため、向上する余地が十分あると考える。
- ・『7. 学校やクラスのルール・約束事を守っている』という項目は、「よく出来ている」という意識が全体的に低い。具体的にどんなルールや約束事が守っていないのか、なぜ守れないのかを探り、解決の糸口を見つけていきたい。また、ルールや約束事の必要性や大切さが考えられているかも確認する必要がある。
- ・『8. 学校であったことを, 家庭で話している』という項目については 80%以上の児童が「出来ている」としていることに安心するが、5%の児童が話せていないことにも注目したい。また、自分にとって都合の悪いことも話すことができているかは疑問である。

全校児童にとって概ね友達関係も良好で学校は楽しい場であることを嬉しく思います。しかし少數ではあっても学校が楽しい場とは言えないという実態を学校全体でしっかり受け止め、教職員全員が気にかかる様子を見逃さないように声をかけ、見守っていきます。

「ていねいな言葉遣い」については、学校でも家庭でも意識して取り組むべき課題です。相手の気持ちを考え、正しい言葉遣いで自分の思いや考えを述べができるように、授業の中でも意識を高めています。また、上の上の人には敬語で話すということや、自分が発する言葉に責任をもつということを徹底していきます。

子どもたちは、自分ではできているつもりであっても、進んであいさつをすることや一歩踏み込んで深い友達関係を築くことができない様子が見られています。また、失敗をおそれて前に進みにくいことや、自分のことに精一杯で他人を思いやる余裕がなくなることもあります。あいさつは誰に対してどのような思いでするものなのかということや、子どもたちの良いところを、大人が進んで見つけて伝えていくことを継続して行っています。

(3) 健やかな体		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1. 早寝早起き朝ご飯などの生活習慣が身についている。	低	58%	33%	8%	1%
	高	41%	39%	15%	5%
2. 外遊びなどで、よく体を動かしている	低	68%	20%	10%	2%
	高	51%	27%	18%	4%
3. 好き嫌いなく給食を食べている。	低	55%	32%	11%	2%
	高	54%	32%	11%	3%
4. 自分のことは自分でしている。	低	68%	27%	4%	1%
	高	49%	43%	7%	1%

◎対策として◎

◎傾向◎

- ・『1. 早寝早起き朝ご飯などの生活習慣が身についている』の項目では、高学年で「あまり出来ていない」と感じている児童が増えている。特に習い事等の関係もあり、夜型になっていて「早寝」ができないようである。
- ・『2. 外遊びなどで、よく体を動かしている』は、学年が上がるにつれて「あまり出来ていない」という児童が増えている。休み時間の様子から見ても実態として感じられる。
- ・『3. 好き嫌いなく給食を食べている』で13~14%の児童が「出来ていない」と思っているが、給食を残さずに食べる児童が増えている。偏食、食事に時間がかかるという実態がある。
- ・『4. 自分のことは自分でしている』という高学年の児童の意識をより高めていく必要を感じる。

学年が上がると生活リズムが夜型になっていく傾向があります。睡眠時間や食事の時間を確保することが児童の成長につながることを見直し、有効に活用する方法を考え実践できるようご家庭でもご協力ください。

姿勢が気になる児童が多くいます。学習中や食事中の姿勢に注目して声をかけるようにしてください。背筋を伸ばして座ることは胃腸や脳の働きを良くすると言われています。

自分のことは何かを考え、学校生活でも、自分に出来ることを進んで行うようにしていきます。家庭でも自分でできるように見守ってください。



【9月7日（日）実施の引渡し訓練について】

昨年度の反省を踏まえて、児童が在校中に台風や震度5弱以上の地震等の災害が起きた場合を想定して、児童の安全を第一に考え、学級担任が中心となって、児童を確実に引き渡す訓練を行いました。訓練に参加していただいた保護者の皆様から貴重なご意見をいただきました。今後の改善につなげたいと思います。

- ◎あらかじめ兄弟姉妹が同じ教室に移動していたり、下靴に履き替えていたり、移動経路が決まっていたりしたことで、昨年よりもスムーズに訓練ができた。
- ◎徒歩で下校する人と自転車で下校する人が一緒に、正門を出るところで大混雑をしたので、災害緊急時には利用できる門を増やしたほうが良いのではないか。
- ◎正門を出たところの学校前道路では、下校する親子が道いっぱいに広がって歩く状態だった。全校児童が下校することになるため、時間差をつける等の配慮が必要だと感じた。
- ◎災害緊急時は、学校に迎えに来て、引き渡しをすることになるので、混乱を防ぐためにもいろいろな想定をして訓練をする必要がある。

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果より

4月22日（火）に、全国の小学校6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の本校の結果がまとめました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習に対する関心などについて問う児童質問紙調査も実施しています。本校の子どもたちの状況を報告いたします。

《総合結果》

テストは、主として知識力を問うA問題と、主として活用力を問うB問題の2種類あります。本校の6年生は、国語A・B、算数A・Bとも、全国の公立小学校と京都府の公立小学校の平均正答率を上回る結果となりました。また、どの問題も無解答率が非常に低く、粘り強く問題に向かう姿勢が見られました。

《国語科の成果と課題》

- ・全体的によくできています。
- ・国語Aでは、漢字道場の取組の成果が見られ、既習漢字を書く3問の平均は全国や京都府より平均6~8ポイント上回っていました。習得した漢字を日常的に文章の中で適切に使うよう意識することが今後も重要だと考えます。
- ・中学年で学習した故事成語の意味と使い方を問う問題の正答率がやや低くなっています。日常的に触れる機会を作っていく必要を感じます。
- ・国語Bでは、立場や根拠を明確にして質問や意見を述べたり、整理をして関連付けながらまとめて書いたりする記述式の問題の正答率が比較的低いです。互いの立場や意見を踏まえた上で、中心となる考え方や理由、根拠などを短い言葉で要約する力を身につけていく必要があります。

《算数科の成果と課題》

- ・全体的によくできています。
- ・特に、四則計算(+, -, ×, ÷)については、ほとんどの児童がよくできていました。算数道場で取り組んでいるマス計算の成果もあると考えます。継続的に取り組んでさらに定着を図っていきます。
- ・計算の意味を理解して問題を解くことは、本校の結果のみならず、全国的な課題として注目するところです。ただ問題を解くだけでなく、解き方の説明をしたり、求め方を記述したりしていくことが大切です。根拠を大切にしたり、友達の考えを参考にしたりして、学びを深め、最終的に自分の力で問題を解く力を身につけていきたいです。
- ・図形の問題は、得意な児童と苦手とする児童の差がはっきり表れています。図形の性質を知ったり理解したりすることやコンパスや三角定規の正しい使い方を保障することで、苦手意識を克服できるようにしていきたいと考えます。



《児童質問紙から見えてくること ～74の質問に回答しました～》

- ・『ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある』という項目では、96%を超える児童が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答していて達成感を感じている。
- ・『難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している』『自分には、よいところがある』という項目では、20%前後の児童が「どちらかといえば当てはまらない・当てはまらない」と回答していることを受け止めて、自分自身に自信をもたせたり、自己肯定感を高めたりしていく必要を感じる。
- ・『友達の前で自分の考え方や意見を発表することは得意ですか』という項目では、当てはまると当てはまらないが約半数ずつである。さらに安心して話が出来る友達関係や学級の環境をつくるいく必要がある。
- ・本校の児童は、京都府・全国と比べて、平日も、土曜日や日曜日も学習している時間が多い。また、毎日帰宅後や休みの日も学習している児童が多い。しかし、『家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか』という項目では約半数の児童が「あまりしていない・全くしていない」と回答している。
- ・『テレビのニュースやインターネットのニュースを見ますか』の項目は83%を超える児童が「よく見る・時々見る」と回答していて、『新聞を読んでいますか』の項目は約半数の児童が「ほとんど、または全く読まない」と答えている。社会の事象には目を向けていたが、文章をじっくり読み込む時間をとて自分の考えをもつことが少なくなっている。
- ・国語や算数の学習は大切だと考えている児童が多い。

《終わりに・・》

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものではありません。確かな学力を定着させるためには、基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力や学ぼうとする意欲を身につけることがとても重要です。学校では、主体的な学びができるように、どの教科も1時間の学習のめあてを明確にして授業を行っていきます。また、学校と家庭が協力し、児童が自分の夢に向かって見通しをもって計画的に学習に取り組む姿勢を育み、自ら学ぶことができる力につけていきたいと考えています。

学力は、地道な積み重ねで定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となることをご理解いただき、今後ともご協力いただきますようよろしくお願ひいたします。

【今年度のおもな取組】

(1) 確かな学力

☆国語科・算数科の校内研究を核として、コミュニケーション力を高める言語活動のあり方を考え、各教科・領域における言語活動の充実を図る。

☆帯時間の学習を充実

- ・朝の帯時間の活用

- ★ 読書・漢字・マス計算《学びの基礎・基本の定着》

- ・昼の帯時間の活用

- ★ 読み声タイム 《発声・発音を意識して》

- ★ ベーシックタイム 《基本的な学習の定着を意識して》

☆読書活動の充実

- ・全校一斉読書の取組《感想交流による認め合い》

- ・ブックウォークの取組《自分でめあてをきめて》

- ・マイバッグ《いつも身近に1冊の本を》



(2) 豊かな心

☆人権教育の充実(みんなの日)

- ・人権にかかわるテーマについて、年間8回の「みんなの日」の学習で考え、意識を高める。

☆一人一人を大切に

- ・大人も子どもも学校内で名札を着用する。名前で呼び合えるようにする。友達の良さを見つけ合う。

- ・大人も子どもも進んであいさつをして、自分からたくさんの人と心をつないでいけるようにする。

コミュニケーション能力を育成する。

(3) 健やかな体

☆健康・安全教育の充実

- ・もりもりカレンダー週間での基本的な生活習慣の見直し

- ・栄養教諭による「食に関する指導」

- ・避難訓練の充実 ・低学年の交通安全教室の実施

☆体育学習の充実



《学校評議員会で報告し、ご意見をいただきました。》



◎親が子どもに手を貸してしまうことが多く、見守る余裕が子どもを自律させることにつながるのではないか。

◎挨拶については、大切にしてほしいところである。「礼儀正しく」というしつけの部分で、子どもたちに挨拶を教えていく必要があるのではないか。

◎学力学習状況調査から、故事成語の意味を問う問題が出ていることから、四字熟語やことわざ等にも興味をもって、日本語のもつ美しさを感じながら、言葉が使えるようになっていってほしい。



～今回の結果を踏まえて後期の取組にいかしていきます。ご協力ありがとうございました。～